

# 横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年10月）

## 《今月のトピックス》

- マイコプラズマ肺炎、伝染性紅斑の報告数が増加しています。百日咳、手足口病の報告も続いています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が引き続き多い傾向が続いています。肉などの食品は十分に加熱し、調理や食事の前、トイレの後などにはしっかり手を洗いましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心とした幅広い年齢層で患者が発生しており、引き続き注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年9月23日～10月20日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	16件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
A型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
レジオネラ症	4件	水痘(入院例に限る)	1件
ウイルス性肝炎	1件	梅毒	16件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	百日咳	5件

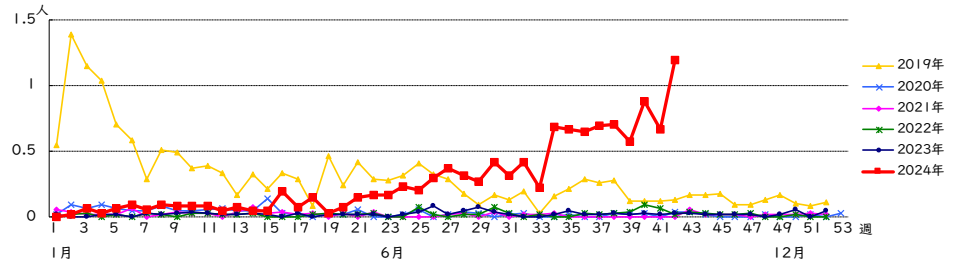
1. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～90歳代で、O血清群はO157が12件、O128が1件、O血清不明が3件です。経口感染と推定される報告が9件、感染経路等不明の報告が7件です。
2. **E型肝炎**:いずれも60歳代で、経口感染と推定されています。
3. **A型肝炎**:10歳代(ワクチン接種歴無)で、経口感染と推定されています。
4. **マラリア**:10歳代で、海外での動物・蚊・昆虫等からの感染と推定されています。
5. **レジオネラ症**:50歳代～80歳代で、いずれも肺炎型です。水系感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が2件です。
6. **ウイルス性肝炎**:20歳代で、B型(ワクチン接種歴不明)です。感染経路は性的接触と推定されています。
7. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:30歳代～70歳代で、以前からの保菌と推定される報告が1件、医療器具関連感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件です。
8. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:90歳代で、血清型はG群です。創傷感染と推定されています。
9. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:60歳代で、感染経路は性的接触(同性間)と推定されています。
10. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:いずれも80歳代(ワクチン接種歴不明2件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
11. **侵襲性肺炎球菌感染症**:いずれも80歳代(ワクチン接種歴無2件、不明1件)で、感染経路等不明です。
12. **水痘(入院例に限る)**:70歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
13. **梅毒**:20歳代～50歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期8件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件、無症状病原体保有者5件です。性的接触による感染と推定される報告が13件(異性間12件、同性間1件)、感染経路等不明が3件です。
14. **百日咳**:10歳未満～40歳代(ワクチン接種歴4回1件、不明4件)で、いずれも感染経路等不明です。

報告週対応表	
2024年第39週	9月23日～9月29日
第40週	9月30日～10月6日
第41週	10月7日～10月13日
第42週	10月14日～10月20日

◇ 定点把握の対象

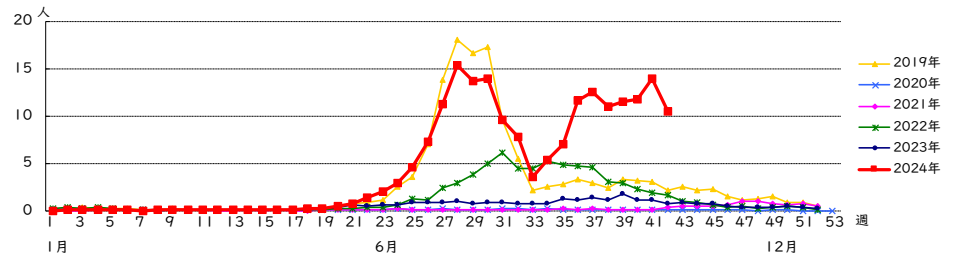
1 伝染性紅斑

2024年第20週以降増加傾向となり、特に第34週以降は例年よりもかなり高い値で推移しています。第42週は1.19です。



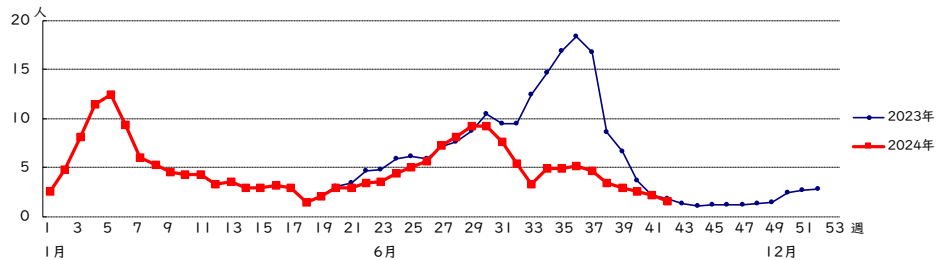
2 手足口病

2024年第26週に7.22となり、警報発令基準値(5.00)を上回りました。第28週に15.27で1度目のピークを迎え、第41週には13.85で2度目のピークを迎えました。第42週は10.44です。



3 新型コロナウイルス感染症

2024年第19週以降増加傾向が続いていましたが、第29週の9.15をピークに減少傾向が続いています。第42週は1.55です。



4 性感染症(2024年9月)

性器クラミジア感染症	男性:35件	女性:35件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:11件	女性:3件
尖圭コンジローマ	男性:15件	女性:3件	淋菌感染症	男性:16件	女性:2件

5 基幹定点週報

	第39週	第40週	第41週	第42週
細菌性髄膜炎	0.00	0.50	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.25	0.00	0.50
マイコプラズマ肺炎	4.25	2.50	4.25	3.75
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年9月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2024年第39週～第42週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点24件、内科定点8件、基幹定点3件、定点医療機関外1件でした。

11月5日現在、表に示した各種ウイルスの分離11株と遺伝子10件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2024年第39週～第42週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	イン フル エン ザ	手 足 口 病	ヘル パン ギ ー ナ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	発 熱	そ の 他
インフルエンザウイルス AH1型pdm09	5 -						
コクサッキーウイルス A16型		4 4					
エンテロウイルス A71型			1 -			- 1	
エンテロウイルス D68型				- 1			- 1
エコーウイルス 11型						- 1	
ライノウイルス		- 1			- 1		
パレコウイルス 1型					- 1		
アデノウイルス 3型							1 -
合 計	5 -	4 5	1 -	- 1	- 2	- 1	1 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2024年第39週～第42週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症12件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症4件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件、サルモネラ食中毒3件、菌血症2件、ウェルシュ菌食中毒3件でした。医療機関からの検査依頼は、サルモネラ症2件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症、マイコプラズマ感染症疑い、マラリア各1件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は溶血性レンサ球菌感染症2件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査（2024年第39週～第42週）

菌株同定	項目	検体数	血清型等		
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	12	O157:H7 VT1 VT2 (5)		
			O157:H7 VT2 (1)		
			O157:H- VT2 (1)		
			O45:H- VT1 (1)		
			O128:H2 VT1 (1)		
			Og128:H2 VT1 VT2 (1)		
			O145:H- VT2 (1)		
			Og174:Hg8 VT1 VT2 (1)		
			カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)
					<i>Klebsiella aerogenes</i> (1)
<i>Klebsiella pneumoniae</i> (2)					
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	G群溶血性レンサ球菌 (1)			
		侵襲性インフルエンザ菌感染症			1
サルモネラ食中毒	3	<i>Salmonella</i> Newport (3)			
菌血症	2	A群溶血性レンサ球菌 T1型 (2)			
ウェルシュ菌食中毒	3	<i>Clostridium perfringens</i> (3)			
医療機関	サルモネラ症	2	<i>Salmonella</i> Narashino (1) <i>Salmonella</i> Stanley (1)		

分離同定	項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所	レジオネラ症	1	喀痰	レジオネラ属菌 培養 陰性 (1)
	マイコプラズマ感染症疑い	1	咽頭ぬぐい液	マイコプラズマ PCR 陰性 (1)
	マラリア	1	血液	<i>Plasmodium falciparum</i> 遺伝子 陽性 (1)

小児サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶連菌感染症	2	溶血性レンサ球菌 培養 陰性 (2)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】